

カラ	―	■二世中興大圓武志大和尚十三回忌	1
法	話	●見える命 見えないいのち	14
連	載	●『普勸坐禅儀』に学ぶ その十	28
法	話	●いのちをおさめる 平成二十八年「秋彼岸会法話」	36
	●	おびんずるさま	50
カラ	―	■おびんずるさま、清水寺参拝旅行、道標建立	53
アーカイブ	■	おもいやりの心 ― 禅仏教の展望と真の教育	64
	●	第二十九回 育英会辞令交付式	76
転	載	●育英会は善光寺の使命であり、理念	78
	●	ニュースアラカルト	86
	●	善光寺霊園ニュース	100
	●	お知らせ 毎月の催事	108
	●	普門寺アイゼンブッフ禅センターからのお便り	116
		育英生からのお便り	125
		育英会寄付	126
		読者のたより	128
		編集後記	142
		題字・イラスト 伊藤三喜庵	

# 巻頭言

善光寺住職 黒田博志

『宗祖を通して釈尊に還る』

師父はこの理念の基に善光寺を興し、活動し発信をし続けました。

本年、師父遷化後十二年の歳月を経て、十三回忌の年を迎えました。

師父の遺された善光寺の理念を想う時、その崇高さとそれを実践し続けてきた師父の強さを感じます。その実践の賜物である善光寺檀信徒皆様とのご縁。本年も数多くの方々より師父との思い出を伺いました。

檀信徒から信頼を頂いてこそその住職。

十月二十九日、大乘寺山主東隆眞老師に導師をお務め頂き、六十名を越すご寺院様方、七十名を越す各関係の皆様と共に十三回忌法要を厳修することが出来ました。歴

住墓には正翁寺御住職篁素明老師を導師に詣塔諷經をお務め頂き、皆様長い階段を登ってお参りして下さいました。ありがとございました。

秋彼岸法会に併せては成願寺御住職山口晴通老師に導師をお務め頂き、六百名を越す檀信徒の皆様と共に十三回忌予修法要を厳修致しました。多くの檀信徒に喜ばれ、改めて皆様の印象に残る住職であったのだなあと感じ入りました。師父遷化後に新しく縁を結ばせて頂いた皆様に対して私自身どれだけの影響、安心を与えることが出来ているのか。我が身を鑑み身の引き締まる思いを致しております。

多くの皆様のおかげで本年の一大行持を無事に修することが出来ました。心より感謝申し上げます。

この十三回忌法要にむけて山内の整備も致しました。昨年の「くろだ文庫」に続き、境内の敷地に「成寿堂」を建築し師父が檀信徒や有縁の方々よりご寄進頂いた絵画や掛軸などを收藏致しました。駐車場の整備や道標建立など師父への報恩としての山内整備。

初夏、京都清水寺参拝。平成十三年に清水寺境内に建立された顕彰碑を師父の写真

を胸に檀信徒の皆様と共にお参りできた事はこの上ない幸せでありました。森清範猊下には御多用中にも関わらずお時間を頂き、ご法話を賜りました。

又、猊下には善光寺に登る参道に建立した道標にご揮毫も賜りました。この道標は昨年逝去された鳥居秀行総代が発願していたものをご子息の悟様がお父様の遺志を相承しご寄進頂いたものです。

そして本号巻頭の新たに朱を帯びた善光寺の守り本尊身代り不動明王。師父はこのお不動様に護られ導かれて不動の心で歩まれました。とても力強く、パワーを頂ぎます。大きなお力で我々をお護りお導き下さいます。私もこのお不動様に導かれて師父の理念を継承して参る所存です。

世代や時空を超えて、多くの方々の思いが寺に寄せられております。その思いを受け止められるよう、師父のように皆様から信頼される住職になりたいと切に思います。

修証義第五章には『行持報恩』のお言葉。仏縁を頂き自らの仏心に目覚め、仏としての行いを持続していく事こそ仏の恩に報いていく道、幸せへの道であります。釈尊に還る道。その道の地図を明らかにし、道標を建ててお示し下さる宗祖や祖師方。そ

して先達として私をいつも励まして下さる師父。その師父の誓願、

「仏道を通して世界の安心・平和・幸福に寄与する人材を育てる」

その実践行として発足した横浜善光寺留学僧育英会も明年、設立二十周年を迎えます。これも偏に、師父の誓願を支えて下さった檀信徒皆様のおかげ、各方面・各関係者の皆様のおかげです。重ね重ね心よりの御礼を申し上げます。

私はこれからも、善光寺の理念を頭上に戴き敬いつつ、日々学びそして実践し、この幸せへの道を檀信徒の皆様と共に歩んでいくよう精進して参ります。

明年も益々のご指導ご鞭撻を賜りますよう伏してお願ひ申し上げます。